



Graduate School of Urban Management Global Exchange Office Osaka City University 国際シンポジウム(同時通訳付)



ポストオリンピックとアートプロジェクト

-ストリートワイズ・オペラ/ アート&ホームレス インターナショナルと ココルームの交流からみえること-

2021年 12月 1日(水)19時~21時(日本時間)/10時~12時(イギリス時間)

会場:オンライン(ZOOM)・ライブ配信

主催:大阪市立大学大学院都市経営研究科・国際センター 共催:NPO 法人こえとことばとこころの部屋(ココルーム)

後援:文化経済学会<日本>関西部会

セッション1 ストリートワイズ・オペラとココルームの交流からみえること(講演会&意見交換)

ゲストスピーカー

マット・ピーコック (Director, Arts & Homelessness International)

上田假奈代 (NPO ココルーム 代表理事)

坂本幸仁 (貝塚市立津田小学校 校長)

セッション2 ポストオリンピックとアートプロジェクト (パネルディスカッション)

パネリスト

マイク・フェザーストーン (ゴールドスミス・カレッジ大学教授)

玉利智子 (ゴールドスミス・カレッジ大学上級講師)

マット・ピーコック

上田假奈代

モデレーター

吉田隆之 (大阪市立大学 准教授)

ポストオリンピックとアートプロジェクト

ーストリートワイズ・オペラ/アート&ホームレス インターナショナルとココルームの交流からみえることー

オリンピック・パラリンピックは、スポーツの祭典であると同時に文化の祭典でもある。ロンドン 2012、リオ 2016、東京 2021 (2022 年開催)で、それぞれ文化プログラムの取り組みがあった。ロンドン 2012 の文化プログラムは、前例のない規模、統一された実施体制、国民の文化体験・ネットワーク構築などのレガシーによって注目された。東京 2020 もそれに倣おうとしたが、COVID-19 感染拡大の影響があったものの、レガシーを残すことができたのだろうか。

イギリスの文化都市 2021 に選ばれたコベントリーで、「Arts & Homelessness Festival」が 10月8日~16日に、ホームレス、市民、アーティスト、支援団体などの参加とともに、開催された。ホームレスや日雇い労働者らが描いた絵葉書を展示する「Send a Smile Postcard Project」も実施された。このプロジェクトは、コロナ禍で生まれた孤立やデジタルデバイドの課題にアートからアプローチすることを主題の一つにしている。

「Postcard Project」の作品制作に協力したのは、釜ヶ崎でさまざまな表現者と日雇い労働者らをつなぐ釜ヶ崎芸術大学を設立し、ゲストハウスを運営する NPO ココルームだ。一方、支援団体の一つであるストリートワイズ・オペラは、ロンドンで、ホームレスのオペラ出演を支援し、オリンピックの文化プログラムと連携してきた。ココルームとストリートワイズ・オペラは 2009年からこれまで、大阪やリオで交流を重ねてきた。

シンポジウムでは、ストリートワイズ・オペラ、ココルームのそれぞれの取り組み、オペラを通した交流を概観し、「Postcard Project」が目指す表現と連帯の可能性に焦点を当てる。両者はオリンピック・パラリンピックをどのように振り返り、COVID-19の感染拡大という新たな危機や不安を前に活動しているのだろうか。イギリスと日本の当該事例を掘り下げる一方で、両国の文化プログラムの全体像を眺めながら、オリンピック・パラリンピック後、ウィズコロナ・ポストコロナのアートプロジェクトの方向性・手がかりを、みなさんとともに議論したい。

なお、本シンポジウムはオンラインで、同時通訳をつけて実施 します。ふるってご参加ください。

■日時

2021年12月1日(水) 19時~21時(日本時間)

※10時~12時(イギリス時間)

■プログラム

19時00分~20時10分 セッション1 20時10分~20時15分 休憩 20時15分~21時00分 セッション2



The photographer Alan Kerr

Matt Peacock (マット・ピーコック)

Matt Peacock is Director of Arts & Homelessness International, the global network of arts and homelessness. He is passionate about the arts enabling the voices and ideas of homeless people to be heard. He was one of Evening Standard's Most Influential Londoners, was awarded an MBE by The Queen and featured in former Prime Minister Gordon Brown's book *Britain's Everyday Heros*.



上田假奈代(うえだ・かなよ)

1969 年・吉野生まれ。詩人 3 歳より詩作、17 歳から朗 読をはじめる。2001 年「ことばを人生の味方に、詩業 家宣言」。2003 年、大阪・新世界で喫茶店のふりをした アート NPO「ココルーム」を立ち上げ、2012 年「釜ヶ崎芸術大学」開講。2016 年ゲストハウス開業。大阪市立大学都市研究プラザ研究員、NPO 法人こえとことば とこころの部屋(ココルーム)代表理事。堺アーツカウンシル PD。大手前大学非常勤講師。



坂本幸仁(さかもと・ゆきひと)

貝塚市津田小学校長。小中学校に長年勤務し、人権・同和教育や NIE(教育に新聞を)に思いを持って取り組んできた。自分を見つめ直すこと、そして人のために何ができるのかを考えることを大切にし、子どもたちと共に歩んできた。



Mike Featherstone(マイク・フェザーストーン)

Mike Featherstone is a Professor of Sociology at Goldsmiths, University of London. He is founding editor of the journal Theory, Culture & Society and editor-in-chief of the journal Body & Society. Author of Consumer Culture and Postmodernism (1991, 2nd edition 2007) and Undoing Culture (1995). His books and articles have been translated into sixteen languages.



Tomoko Tamari(玉利智子 / たまり・ともこ)

Senior lecturer in the Institute of Creative and Cultural Entrepreneurship Goldsmiths, University of London. I am also managing editor of the journal Body & Society (SAGE). She is currently working on the following areas: Human Perception and digital media; Al and Society; Olympic Cities and Architecture.



吉田隆之(よしだ・たかゆき)

大阪市立大学大学院都市経営研究科准教授。愛知県庁在職時にあいちトリエンナーレ 2010 を担当。研究テーマは、文化政策・アートプロジェクト論。著書に『芸術祭と地域づくり "祭り"の受容から自発・協働による固有資源化へ』(水曜社、2019 年)、『芸術祭の危機管理 表現の自由を守るマネジメント』(水曜社,2020 年)等。

会 場:オンライン(ZOOM)・ライブ配信

予約方法:下記 PEATIX より事前申込をしてください。(参加料無料)

https://peatix.com/event/3067237/

申込と引き換えに、視聴ページをお知らせします。

主催:大阪市立大学大学院都市経営研究科・国際センター

共催:NPO法人こえとことばとこころの部屋(ココルーム)

後援:文化経済学会<日本>関西部会